

eー黒板が授業を変える

ー eー黒板を活用した新たな授業展開への試み ー

墨田区立鐘淵中学校 教諭 市倉茂雄

nimidora@hkg.odn.ne.jp

キーワード：中学校，全学年，全教科，eー黒板

1. 企画の内容

学力の低下が言われはじめ、どこの学校でも基礎学力をいかにしてつけさせるかということが、大きな課題になっていると思います。本校でも試行錯誤を日々繰り返しているところです。

学力の低下が勉強への意欲・関心の低下を招き、意欲・関心の低下から学習への取り組みがおろそかになり、学力の低下につながるのでは、という仮説が本校の中で浮かび上がってきました。

その中で、eー黒板（電子情報ボード）の導入で生徒に視覚的にインパクトを与え、そこから授業への参加を促し、意欲・関心を高め、学習活動を充実させようと企画をしました。

2. 実施の過程

（1）前年度からの準備

本企画を受ける前の年度より、eー黒板を購入し、理科、体育、数学などの教科で試行を行ってきました。この段階では全校体制で実施をするというよりは、関心を持ってくれた教員が自発的に活用をするものでした。生徒にとってははじめてみる機器のため、衝撃があり授業への集中度が上がったとの感想がありました。

（2）今年度の計画

前年度の成果を受け、今年度は全教科でeー黒板の活用を行うことになりました。漠然と行うのではなく、10月に発表会を行い、そこで全授業を公開する、一人ひとりの教員が必ず1時間はeー黒板を使うなどのことを年度当初に決めました。また、研究推進委員を組織し、計画・実施を行うようにしました。



写真1 校内研修

（3）研修の方法

教員にとっても初めての機器ですので、使い方の研修から行う必要がありました。メインとなる教員がインストラクターを務め、基本的なセットや操作方法の研修を行いました。また、夏季休業中には4～5人の少人数グループにおける集中研修を行い、操作方法の習得、教材の開発を行いました。そして、6～9月の間に各教科で公開授業を行い、全教員で参観・意見交換を行い、教科の特性とそれに合わせたeー黒板の有効活用について研修を深めました。

10月の発表会後も継続使用を続け、操作方法の習熟をはじめ、eー黒板の活用が有効である分野、eー黒板用のデジタル教材の開発を続けています。

3. 導入後の変容

（1）生徒の変容

eー黒板を使って本当に学力が向上したのかという点ですが、eー黒板を使う授業と使わない授業を行うわけにはいきませんし、学習集団の差もあり、科学的な実証はすぐにはできないと思います。授業者の主観になってしまいますが、eー黒板を使い始めてからは生徒が前を向く機会が増えました。また、今教室で何を行っているかについて、生徒間の情報の共有が活発になりました。授業に参加しようという意識はeー黒板の導入で向上をしたと感じています。

生徒の感想の中でも、動きがあって面白い、前回の授業の内容を見ることができて思い出すのが容易になった、次はどんなワザが出てくるか楽しみだ、という前向きなものが多く見られます。また、あってもなくても同じ、無理をして使わなくても、という意見も見られましたが、概ね良好と感じています。

（2）教員の変容

eー黒板を使わなくても授業はできる、と導入当初は前向きでない教員が多かったですが、実際に使っている場面を見ると、「ああいうことはできないのか」、「こうしたいが、どうしたらいいか」と前向きな意見を出してくれるようになりました。新たな刺激により、授業計画に膨らみが出てきたと感じています。技術的なサポートは初期の段階では必要になりますが、慣れてくることでそれも解消されていきました。

従来にない、新たな授業展開をするという意味で、「eー黒板は授業を変える」可能性を秘めていると感じています。



写真2 授業の様子